



サステナビリティ レポート2025



目次

巻頭言	3
サステナビリティレポート2025の目的	4
基本情報	5
施設	6
ビジョン	7
エコシステム	8
サステナビリティへの取り組み方針	9
サステナビリティポリシー	10
ISO 20121規格とその価値観	12
目標・施策・優先事項	13
ガバナンス／持続可能な開発目標（SDGs）	14
施設管理と資源効率	15
地域社会にもたらす価値	16
生物多様性と環境保全	17
人材、安全・公正な労働環境	18
社会貢献プロジェクトと地域エンゲージメント	19
ユース部門における社会的取り組み	20
グラスルーツ	21
主要数値一覧	22

継続的な改善を推進するため、本サステナビリティレポートの内容に関するご意見・ご提案・改善案等がございましたら、以下のお問い合わせフォームよりお寄せください。

<https://tayori.com/f/tokyoverdy-inquiry/>

巻頭言

フットボールは、単なる競技にとどまるものではありません。あらゆる背景を持つ人々をつなぐ世界共通の言語であると同時に、規律や敬意、協働の大切さを育む場でもあります。地域のピッチから大規模なスタジアムに至るまで、スポーツは多くの人々の成長に寄り添い、地域社会とのつながりを深めながら、包摂や教育、自己成長といった価値を育んできました。

そして、こうした価値観の広がりとともに、いま改めて重要性を増しているのが、環境、社会、そして私たちを取り巻く地域社会へのまなざしです。地球とそこに暮らす人々を大切にすることは、私たちがプレーする場を守り、共有する空間をより良いものとし、次世代へとつながる未来を築くことにほかなりません。今日、スポーツとサステナビリティは、もはや切り離して考えることのできない関係にあります。

東京ヴェルディは、スポーツには社会に前向きな変化をもたらす力があると信じ、持続可能な社会の実現に向けた取り組みを進めてきました。

2025年には、日々の継続的な改善を見据え、国際的なイベントのサステナビリティマネジメントシステム規格である ISO 20121:2024 の考え方にに基づき、クラブのサステナビリティ戦略を策定しました。この枠組みにより、環境、社会、ガバナンス、地域経済といった多面的な観点から、継続的な改善を図ることが可能となります。また本戦略は、施設管理、イベント運営、地域との関わり、さらにはステークホルダーとの関係構築に至るまで、クラブ運営の状況を体系的かつ継続的に把握し、より良い方向へつなげていくことを目的としています。東京ヴェルディは、サステナビリティポリシーの達成と地球規模の環境課題への対応にあたっては、スチュワードシップ、透明性、包摂性、誠実性、そしてレガシーの視点を統合した包括的なアプローチが不可欠であると考えています。

本レポートは、こうした取り組みの進捗と今後の改善の方向性を示すとともに、フットボールと地域社会のより持続可能な未来に向けた、東京ヴェルディの意思と責任を明らかにするものです。

この度、クラブ初の試みとして、本「サステナビリティレポート2025」を発行できたこと、大変光栄に思います。本レポートは Jリーグ及び日本財団のサステナビリティ事業活動助成金を活用して作成したものです。この場を借りて、両者の多大なるご支援に感謝申し上げます。

東京ヴェルディは、2024年より「TOKYO♡GREEN」という標語を掲げ、気候アクションを含むサステナビリティ活動に注力してまいりました。

その背景として、世界的大都市である東京に拠点を置き、「緑」(Verde) の名前とカラーを冠したクラブとして当然に、地球環境に配慮した持続的な経済社会活動を牽引する責任があると認識しています。また、日本サッカー界最古よりユース育成に取り組んできたクラブとして、次世代を担う子どもたち全員が、今も将来もスポーツを楽しめる環境を整備し、かつ、子どもたちに対して環境保護の重要性を啓蒙し、未来に繋いでいくことは、クラブが果たすべき使命であると考えております。

本レポートの発行を機に、当クラブのサステナビリティ活動に対する姿勢が国内外に広がり、様々なステークホルダーの皆様との取り組みをより一層加速させ、地球環境の保全ならびに改善の一助となれることを期待しております。

中村 考昭

代表取締役社長
東京ヴェルディ株式会社

サステナビリティレポート2025の 目的

2025年1月から12月を対象とする本サステナビリティレポートは、東京ヴェルディとして初めて行うサステナビリティに関する情報開示です。本レポートは、クラブのサステナビリティへの取り組みの出発点を示すとともに、報告期間における主な成果を総合的にお伝えするものです。

本レポートは、将来世代の可能性を損なうことなく現在のニーズに応えていくという持続可能な発展の考え方のもと、東京ヴェルディの中長期的なサステナビリティ戦略と、その実践に向けた姿勢を示すものです。また、今後のサステナビリティ目標の設定と継続的な改善を進めていくうえでの基盤ともなります。

さらに、本書は、社内外のコミュニケーションにおける教育・啓発資料として、従業員、スタッフ、ボランティアをはじめとする関係者に活用されることを想定しています。

本レポートは2026年1月に起草されました。



基本情報

東京ヴェルディは1969年に東京で創設されたプロサッカークラブであり、日本サッカーの最上位カテゴリーであるJ1リーグに所属しています。クラブは日本サッカー界において長い伝統を有し、日本最古かつ最も権威あるノックアウト大会である天皇杯で5度の優勝を誇るほか、1987年にはアジアクラブ選手権を制しています。

2025年はJ1リーグに参戦し、リーグ戦を17位で終えたほか、ルヴァンカップおよび第105回天皇杯にも出場しました。

これまで続けてきた環境・社会分野の取り組みをさらに発展させるべく、東京ヴェルディは2025年、イベント・サステナビリティマネジメントシステム規格ISO 20121:2024の原則に基づき、より体系的な形でサステナビリティへの取り組みを再構築することを決定しました。



2025シーズン:

- **東京ヴェルディ**
男子トップチーム
- **日テレ・東京ヴェルディベレーザ**
女子トップチーム



4
アカデミー
数

153
ユース部門
選手数

170
サステナビリティ
施策数

1,300
グラスルーツ
選手数

施設

東京ヴェルディ男子トップチームは、東京都内有数の大規模サッカー競技場である味の素スタジアムをホームスタジアムとしています。同スタジアムの収容人数は48,013人で、国内外の大規模スポーツイベントの開催が可能です。その規模と近代的な設備により、日本のプロサッカーにおける重要な拠点の一つとなっています。

女子トップチームである日テレ・東京ヴェルディベレーザは、味の素フィールド西が丘をホームゲーム会場としています。

試合会場に加え、男子・女子トップチームおよびユースアカデミー各カテゴリーは、ヴェルディグラウンドにおいて日々のトレーニングおよび育成活動を行っています。同施設にはクラブの事務局機能も置かれており、競技、育成、運営の各機能が一体となった東京ヴェルディの統合的な体制を支えています。



施設名	ピッチ数	収容人数
味の素スタジアム	1面	48,013席
味の素フィールド西が丘	1面	7,137席
ヴェルディグラウンド	3面（天然芝2面、主にアカデミーおよびグラスルーツプログラムで使用する人工芝1面）	N/A

ビジョン

東京ヴェルディは、長い歴史と伝統を有するプロサッカークラブとして、フットボールを通じて人々に希望や活力を届け、地域とのつながりを深めることを目指しています。私たちは、スポーツを単なる競技にとどまらず、共有価値や帰属意識を育む社会的・文化的資産であると捉えています。

クラブの取り組みは、試合日だけに限られるものではありません。地域に深く根差す東京ヴェルディは、持続可能な発展の考え方とISO 20121の原則に沿って、環境・社会・ガバナンスの視点を事業運営に取り入れ、人々と地域社会に対する長期的な価値の創出を目指しています。

東京ヴェルディの環境・社会に関する取り組みは、以下の国連持続可能な開発目標（SDGs）に沿って整理することができます。



目標 3

すべての人に健康と福祉を

あらゆる年齢のすべての人々の健康的な生活を確保し、福祉を促進する



目標 4

質の高い教育をみんなに

包摂的かつ公正な質の高い教育の提供と生涯学習の促進に向けた取組



目標 5

ジェンダー平等を実現しよう

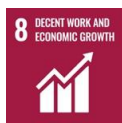
ジェンダー平等を達成し、すべての女性及び女児のエンパワーメントを行う



目標 7

エネルギーをみんなにそしてクリーンに

すべての人々の、安価かつ信頼できる持続可能な近代的エネルギーへのアクセスを確保する



目標 8

働きがいも経済成長も

包摂的かつ持続可能な経済成長及びすべての人々の完全かつ生産的な雇用と働きがいのある人間らしい雇用を促進する



目標 9

産業と技術革新の基盤をつくろう

強靱(レジリエント)なインフラ構築、包摂的かつ持続可能な産業化の促進及びイノベーションの推進を図る



目標 10

人や国の不平等をなくそう

各国内及び各国間の不平等を是正する



目標 11

住み続けられるまちづくりを

包摂的で安全かつ強靱(レジリエント)で持続可能な都市及び人間居住を実現する



目標 12

つくる責任 つかう責任

持続可能な生産消費形態を確保する



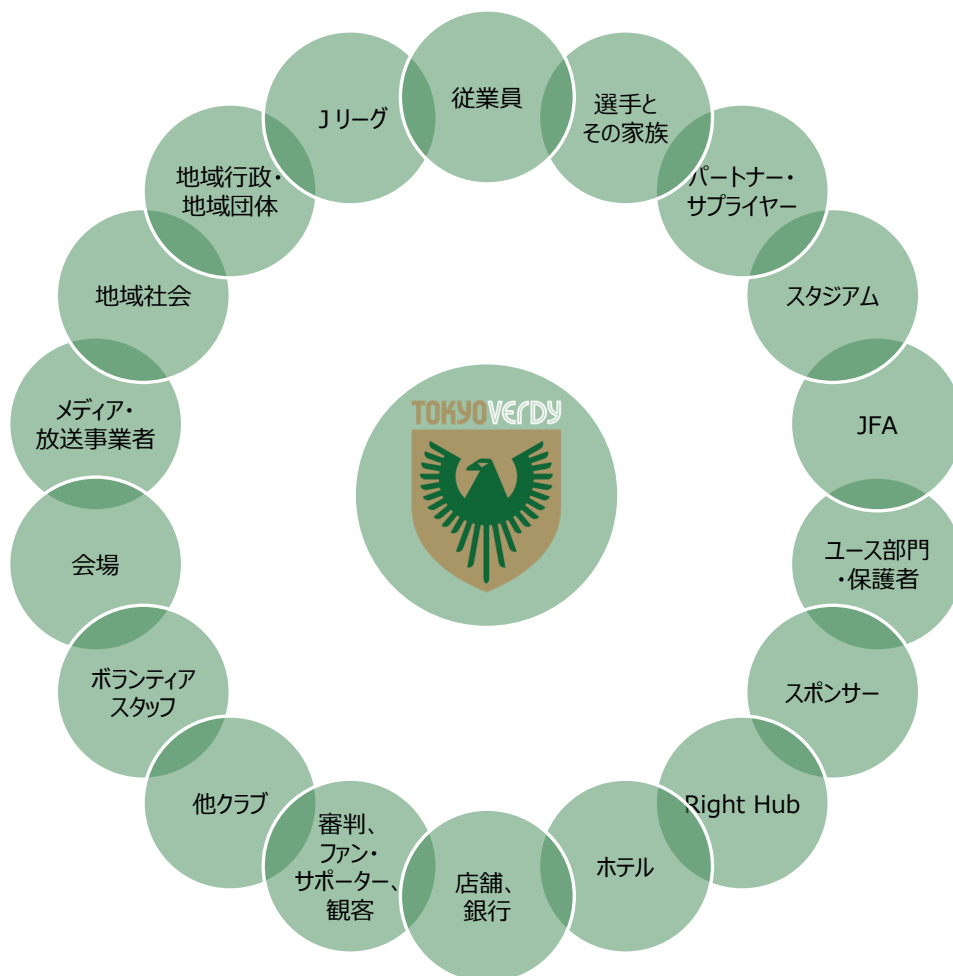
目標 13

気候変動に具体的な対策を

気候変動及びその影響を軽減するための緊急対策を講じる

エコシステム

東京ヴェルディは、透明性、誠実性、そして適切な事業運営の原則に基づくガバナンス体制のもとで活動しており、あらゆる取り組みが責任ある、かつ倫理的な形で遂行されるよう努めています。クラブは、強固なガバナンスを、法令や内部規程上の責務を果たすための重要な基盤であると同時に、ステークホルダーや戦略的パートナーとの信頼関係を高める要素であると位置づけています。



東京ヴェルディは、環境・社会的責任と実効性の高い経営手法を組み合わせたガバナンスモデルを採用し、長期的な価値創出に向けた体系的かつ持続可能な取り組みを支えています。

以下の各章では、クラブのガバナンス体制、組織運営の枠組み、関連するSDGs、そして東京ヴェルディが中核的な価値観に基づき、責任ある活動を行うための取り組みをご紹介します。

サステナビリティへの 取り組み方針

東京ヴェルディは、サステナビリティ戦略で定めた短期・中期・長期の目標を着実に推進し、気候変動の緩和・適応に貢献するとともに、社会的・経済的なインパクトを高めていくため、イベント・サステナビリティマネジメントシステムの国際規格であるISO 20121:2024の原則に基づくサステナビリティマネジメントシステムを導入することを決定しました。

ISO 20121:2024 — イベント・サステナビリティマネジメントシステム

ISO 20121（イベント・サステナビリティマネジメントシステム）は、環境・社会・経済の観点から、責任ある持続可能な運営を行うための要件を定めた規格です。本規格はスポーツ組織にも適用することができます。

ISO 20121は、サステナビリティを環境・社会・経済の3つの側面から体系的かつ包括的に捉える国際規格であり、環境課題のみに限定しない点に特徴があります。

ISO 20121は2012年ロンドン五輪で初めて適用され、環境への影響を最小限に抑えながら、サプライヤーや顧客、行政機関、地域社会、参加者、イベント利用者、各種団体、競技団体、メディアなど、あらゆるステークホルダーとの関係強化にも資する持続可能なイベント運営の要件を定めています。

そのため、東京ヴェルディの2025シーズンにおいては、J1リーグへの参戦に伴う環境・社会・経済の各側面のインパクトを総合的に捉え、分析を行いました。



サステナビリティ ポリシー



東京ヴェルディ ESG ポリシー

2026年2月1日、東京

東京ヴェルディは、東京都を本拠地とするプロサッカークラブであり、現在、日本のトップカテゴリーである J1 リーグに所属しています。1969 年に創設され、読売サッカークラブの系譜を受け継ぐ日本サッカー界の歴史あるクラブの一つとして、J リーグや天皇杯をはじめとする国内タイトルを獲得してきました。クラブは、「挑み続け、感動を超えろ。WE ARE TOKYO VERDY」という明確な価値観と目標を掲げ、以下の姿勢のもとで活動しています。

- 創設以来ヴェルディが大切にしてきたパイオニア精神と高い志を持ち、主体的に行動すること
- 自らの信念の実現に向けて挑戦を続けること。そして、サッカーやスポーツには喜び、怒り、哀しみ、楽しさといった人間のあらゆる感情を引き出し、人々に単なる感動を超える体験をもたらす力があることを認識し、その価値を追求すること

東京ヴェルディは、ESG 戦略の中で定めた短期・中期・長期の目標を達成するとともに、気候変動の緩和に貢献し、社会的・経済的インパクトを高めるため、イベントの持続可能な運営に関する国際規格である ISO 20121:2024 の原則および要求事項を採用し、国際的に認知されたサステナビリティ・マネジメントシステムを導入することを決定しました。この決定により、東京ヴェルディは、ISO 20121:2024 規格および本方針、ならびに「4.5 Mission Statement_Tokyo Verdy」に示された以下の価値観の実践を推進していきます。

- 責任ある運営 (Stewardship)
- 多様な人が参加しやすい環境整備 (Inclusion and accessibility)
- 誠実さ (Integrity)
- 透明性 (Transparency)
- 関係者の参加 (Participation)
- 将来にわたる価値の継承 (Legacy)

東京ヴェルディは、クラブのサステナビリティ施策を継続的に向上させることを目的として、ESG (環境・社会・ガバナンス) フレームワークを導入しています。このアプローチのもと、クラブは以下の取り組みを推進していきます。

サステナビリティ ポリシー

環境

- **CO2 排出量の削減** - クラブ活動に伴うカーボンフットプリントの削減に向けて、長期目標および行動計画を策定します。
- **資源効率の向上** - エネルギーおよび水資源の長期的な使用量を削減するとともに、それらの効率的な利用を推進します。
- **サーキュラーエコノミー** - クラブ活動および運営に伴って発生する廃棄物について、サーキュラーエコノミーの 4R 原則 (Reduce、Reuse、Repair、Recycle) に基づき管理します。
- **物流・輸送** - 不要な CO2 排出や非効率を最小化することに重点を置いて物流活動を計画・運営するとともに、可能な限り環境負荷の低い持続可能な移動手段を積極的に推進します。また、ファン・サポーターに向けても、環境負荷の少ない移動手段を促進します。
- **プラントベースおよび環境負荷の低い食品の提供** - 倫理的な食の選択に沿った、環境負荷の低い食事の選択肢を確保します。
- **生物多様性の保全** - 多摩川における生物多様性を守り保全するため、啓発活動、清掃活動、地域コミュニティの参加促進に取り組みます。

関連する持続可能な開発目標 (SDGs) : SDG 7「エネルギーをみんなに そしてクリーンに」、SDG 12「つくる責任 つかう責任」、SDG 13「気候変動に具体的な対策を」

社会

- **公正な労働環境の維持** - 従業員が最大限に能力を発揮できる、公平で包摂的な職場環境を維持します。
- **教育・研修** - 平日および試合開催日において、学校、大学、自治体、地域コミュニティと連携し、サステナビリティに関する教育プログラムやワークショップを推進します。
- **グラスルーツ活動** - 子どもや若者を対象としたグラスルーツプログラムやサッカースクールを実施し、健康、栄養、スポーツマンシップ、サステナビリティについて学ぶ機会を提供します。
- **インクルージョン** - Green Heart Project を通じて、試合観戦を希望するすべてのファン・サポーターにアクセシビリティを確保できる、包摂的な環境づくりを推進します。
- **地域へのインパクト** - 東京都内の市区町村および東京都全体において、直接的・間接的な経済的・社会的インパクトの創出を推進します。

関連する持続可能な開発目標 (SDGs) : SDG 3「すべての人に健康と福祉を」、SDG 4「質の高い教育をみんなに」、SDG 5「ジェンダー平等を実現しよう」、SDG 8「働きがいも経済成長も」、SDG 10「人や国の不平等をなくそう」

ガバナンス

- **国際条約の尊重** - 責任ある事業活動の推進と、人権および子どもの権利の尊重強化を目的とする国際条約や各種ガイドラインを尊重します。

ISO 20121規格と その価値観

東京ヴェルディは、ISO 20121が掲げる以下の原則および価値観を実践し、クラブ内外へ広く浸透させていくことを掲げます。



スチュワードシップ（適切な管理責任）

環境保全を重視したマネジメントは、東京ヴェルディの方針における主要な柱の一つです。クラブは、活動の設計・計画・実行の各段階において、経済合理性にも配慮しながら、環境負荷の継続的な低減と天然資源の効率的な利用に取り組みます。



包摂性とアクセシビリティ

東京ヴェルディは、民主主義の原則が尊重され、異なる考え方や思想に対する寛容さが確保されることを前提に、民族的出自、性別、宗教、国籍、性的指向、障がいの有無、社会的背景、政治的立場にかかわらず、すべてのステークホルダーに対して平等な機会と公正な取り扱いを保障します。



誠実性

東京ヴェルディにとって、国際的に認められた人権を尊重することは、あらゆる事業関係の前提となる基本原則です。



透明性

東京ヴェルディは、法令および職業倫理上の公正性の原則を遵守し、ステークホルダーに対して、明確で誠実かつ公正なコミュニケーションを行います。



参加

東京ヴェルディは、ステークホルダーの期待に応え、その実現を図るため、持続可能な発展の考え方を広めつつ、ステークホルダーを主体的な参加者として巻き込みながら活動を進めます。



レガシー

東京ヴェルディは、現在および将来の地域社会に残すレガシーを重視し、経済活動、環境責任、社会的進歩の調和を図るアプローチを推進します。

目標・施策・ 優先事項

東京ヴェルディは、J1リーグ2025シーズンへの参画計画を策定するにあたり、クラブ活動によって生じる主な環境・社会・経済的インパクトを特定しました。

この評価に基づき、インパクトを責任ある形で管理し、ISO 20121の原則に沿った継続的な改善を進めるため、以下の5つの重点領域を定めました。

1. 施設管理と資源効率

トレーニング施設および試合運営におけるエネルギー・水資源の使用状況を把握し、改善を図ること。

2. 地域社会にもたらす価値

試合開催日における活動が地域にもたらす経済的価値を測定すること。

3. 生物多様性と環境保全

清掃活動や地域参加を通じて、生物多様性および緑地の保全に貢献すること。

4. 人材、安全・公正な労働環境

従業員および関係者にとって、安全で公正かつ包摂的な就業環境を確保すること。

5. 社会貢献プロジェクトと地域エンゲージメント

クラブのサステナビリティへの取り組みを主要なステークホルダーに対して発信・共有すること。

透明性を確保し、成果を継続的にモニタリングするため、各目標に対する業績指標（KPI）をあらかじめ設定しました。

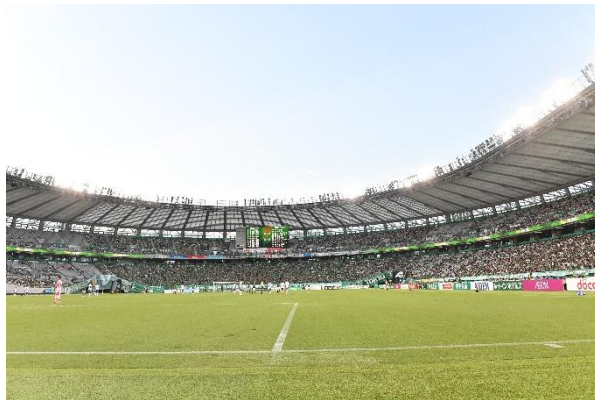
ガバナンス／ 持続可能な開発目標（SDGs）

番号	SDG	東京ヴェルディの取り組み
	3. すべての人に健康と福祉を	地域社会における健康的なライフスタイルの促進／選手およびユース部門の家族と連携した活動
	4. 質の高い教育をみんなに	子ども向けサステナビリティ・ワークショップ／学校・自治体との教育プロジェクト／試合日における啓発活動
	5. ジェンダー平等を実現しよう	指導・運営分野における均等な機会の確保／誰もがスポーツに参加できる環境づくりの推進
	7. エネルギーをみんなにそしてクリーンに	環境負荷低減に向けたエネルギー使用量モニタリングの開始／再生可能電力ソリューションの評価
	8. 働きがいも経済成長も	地域経済価値のモニタリング／試合日運営を通じた地域活動・雇用の支援
	9. 産業と技術革新の基盤をつくろう	ISO 20121マネジメントシステムの導入／モニタリング、報告、継続的改善
	10. 人や国の不平等をなくそう	「Green Heart」による包摂施策とアクセシブルな試合体験の提供／インクルーシブなスポーツプログラム
	11. 住み続けられるまちづくりを	地域連携と地域プロジェクト／街の清掃活動／地域参加モデルの構築
	12. つくる責任 つかう責任	サーキュラーエコノミーの考え方に基づく取り組み：廃棄物削減、清掃活動、持続可能な調達への推進
	13. 気候変動に具体的な対策を	環境啓発キャンペーン／清掃活動／資源効率向上および環境負荷削減に向けた取り組み

施設管理と資源効率

東京ヴェルディは、各施設におけるエネルギーおよび水の使用量をモニタリングすることで、天然資源の責任ある管理を推進しています。これにより、日々のトレーニング活動や試合運営に伴う環境負荷を、よりの確に把握することが可能となります。

ユーティリティデータを体系的に収集することは、今後の効率改善や削減施策に向けた第一歩となります。また、トレーニング施設とスタジアム運営を分けて把握することで、環境パフォーマンスのモニタリングにおける精度と透明性を高めることができます。



本取り組みは、以下のSDGsに関連しています。



地域社会にもたらす価値

東京ヴェルディは、試合開催日に生み出される経済的価値を把握することで、地域経済への貢献を可視化しています。リーグ戦は、クラブ、ファン・サポーター、スタッフ、地域のサービス提供者が大きく関わり合う重要な機会となっています。

入場者数、人員配置、運営費用に関するデータを収集することで、クラブは直接的・間接的な経済インパクトを評価し、責任あるイベント計画の意思決定に役立てることができます。

14,176

ファンクラブ
会員数

855,330

ホーム及びアウェイ
総入場者数

¥1,044,836,410

交通、宿泊、飲食に関する
総支出



本取り組みは、以下のSDGsに関連しています。



生物多様性と環境保全

東京ヴェルディは、生物多様性の保全や都市・自然空間の美化を目的とした取り組みに参加することで、環境保全に貢献しています。これらの活動は、クラブと地域とのつながりを深めるとともに、ステークホルダーの環境意識の向上にもつながっています。

スタジアム周辺や地域内で実施される清掃活動には、選手、スタッフ、ファン・サポーター、市民が参加しており、環境をともに守る意識の醸成につながっています。

40

スタジアム周辺で実施した
清掃活動数

638

参加人数

0

緑地の損傷に関する
苦情件数



本取り組みは、以下のSDGsに関連しています。



人材、安全・公正な労働環境

東京ヴェルディは、持続可能な成果を実現するうえで、「人」の存在が極めて重要であると認識しています。そのため、従業員および関係者に対して、安全で公正かつ包摂的な就業環境を確保することに取り組んでいます。

責任ある人材マネジメントを推進し、健康・安全に関する原則の遵守を徹底するため、人的・社会的な指標を毎年モニタリングしています。

55

従業員数

37

従業員平均年齢

0

労働災害件数

40% F - 60% M

男女比率



本取り組みは、以下のSDGsに関連しています。



社会貢献プロジェクトと 地域エンゲージメント

東京ヴェルディは、スポーツを社会的包摂、教育、地域の発展を促すための手段として活用しています。2025シーズンを通じて、学校、自治体、NGO、その他の団体と連携しながら、体系的な社会貢献プロジェクトを展開しました。

これらの取り組みは、さまざまな年齢層を対象とし、参加の促進、アクセシビリティの向上、ウェルビーイングの推進を通じて、前向きな社会的インパクトを生み出すことを目的としています。

130

社会貢献
プロジェクト数

119,750

参加人数

1,691

活動日数

15

参加者平均年齢



本取り組みは、以下のSDGsに関連しています。



ユース部門における 社会的取り組み

東京ヴェルディは1969年の創設以来、育成を最重要事項の一つとして位置づけ、日本でも高く評価される育成組織を築いてきました。アカデミーは、男女を問わず、子ども時代からプロサッカーに至る明確な育成ルートを提供しており、トップチームと同じ理念、施設、価値観を共有しています。

この取り組みは確かな成果にもつながっており、ユースチームは2024年のJリーグユース選手権で優勝し、クラブはJリーグ最優秀育成クラブ賞を3度受賞しています。

女子部門では、メニーナが2024年のJFA U-18全国タイトルを2年連続で獲得しました。

153
選手数

25
コーチ・スタッフ数



本取り組みは、以下のSDGsに関連しています。



グラスルーツ

東京ヴェルディは、エリート育成にとどまらず、東京都内で13のサッカースクールを運営し、地域社会との強い結びつきを築いています。これらのスクールは単なるトレーニング拠点ではなく、子どもたちや若い選手たちが技術を磨くとともに、チームワーク、敬意、規律を学ぶ場でもあります。この広範なグラスルーツネットワークを通じて、クラブは包摂、主体的な参加、個人の成長を促し、将来の才能と都市に根づく豊かなフットボール文化の基盤を築いています。

1,300

グラスルーツ選手数

20

コーチ・スタッフ数



本取り組みは、以下のSDGsに関連しています。




主要数値一覧

基本情報

1 男子トップチーム 1 女子トップチーム	1,300 グラスルーツ 選手数	153 ユース部門 選手数	
--------------------------------	------------------------	---------------------	---

40 スタジアム周辺での 清掃活動数	130 社会貢献 プロジェクト数	0 労働災害件数	
--------------------------	------------------------	-------------	---

1,453 グラスルーツ・ユース部門 選手総数	119,750 社会貢献プロジェクト参加人数	
-------------------------------	---------------------------	---

地域経済

¥1,044,836,410 地域経済に生み出された価値	
---------------------------------	---

本書のデザインおよび作成は、以下が担当しました。



**Right Hub Srl Società Benefit
Unipersonale**

Via Gioacchino Rossini, 44 20831

Seregno (MB) - Italy

T. +39 (0) 362 238835

www.righthub.it